

第2章 論理プリンター

論理プリンター概要

論理プリンターとは、ネットワークと物理的なプリンターとの間に設定された仮想的なプリンターです。この機能を使うことで、たとえ物理的にはプリンターが1台しかなくても、6つまでの論理プリンターに各々別々の属性を与えて、場合に応じて使い分けることができます。

印刷ジョブ前後の文字列送信機能の使用方法

ここでは、各印刷ジョブ前後にプリンター制御コマンド等の文字列を送信する方法について解説します。この指定は、各論理プリンターで独立に行うことができます。全ての文字列は、16進数値で記述します。

1台のプリンターで複数種類の用紙に印刷する場合、各論理プリンターに対応するコマンドを設定しておけば、出力時に論理プリンターを切り換えるだけでそれらの印刷が可能になります。論理プリンターはlp1～lp6があり、下図のようにBOJ文字列、EOF文字列のパラメーターがあります。



- TN5250E機能を使用する際は、論理ポート設定の「バナーを使用する」を必ず「NO」に設定してください。

以降で、用紙選択の設定例を説明します。

(1) トラクター選択

B0J文字列： ¥x1B¥x7E¥x10¥x00¥x01¥x01

(2) 単票用紙選択

B0J文字列： ¥x1B¥x7E¥x10¥x00¥x01¥x02



- 16進コードに文字コードが割り当てられている場合、文字列設定後にウィンドウを再表示させると、該当する文字に置き換えられて表示されます。

例：

¥x25 ⇒ " % "

¥x31 ⇒ " 1 "

¥x7E ⇒ " ~ "